



いのちの日便り

第3回 読み語り♪

2022. 2.17
山形市立第一中学校
いのち推進プロジェクト
第11号



2月3日(木)の「一中のいのちの日」は、今年度3回目の読み語りでした。
学年担任の先生方や学年を越えた先生方が読み語りを行いました。様々な出典より、読み手の先生方自身が心動かされたお話を読んでくださり、心温まる一時を過ごすことができました。

学級	名前	題名	作者名
3-1	長沼政直教頭先生	「わたしのせいじゃない」	レイフクリスチャンソン
3-2	三宅 美栄先生	「ウェン王子とトラ」	チェン・ジャンホン
3-3	武田 明美先生	「大切な人は今もそこにいる」	千葉望
3-4	井上 元先生	「エリゼのために 忌野清志郎詩集」	忌野清志郎
3-5	田中 利之先生	「ないたあかおに」	浜田広介
ひまわり	鈴木 秀人先生	「となりのせきのますだくん」	武田美穂
2-1	齋藤ひとみ先生	「ずっとずっとだいすきだよ」	ハンス・ウィルヘルム
2-2	柏倉 宏先生	「いのちのいろえんぴつ」	こやま峰子
2-3	石原 ゆり先生	「ひとりじゃないよ」	アムネスティ・インターナショナル日本
2-4	山口 督子先生	「せかいがかせをひいたから」	高橋しづこ
2-5	三宅 史織先生	「おばあちゃんは木になった」	大西暢夫
1-1	庄司 里香先生	「わたしがあなたを選びました」	鮫島浩二
1-2	岡崎 裕子先生	「どんなかんじかなあ」	中山千夏
1-3	山口 弘治先生	「花咲き山」	齋藤隆介
1-4	瀧川 志保先生	「かぜのでんわ」	いもとようこ
1-5	小関 悠里先生	「はせがわくんきらいや」	長谷川集平

次回は3月3日(木)「一年を振り返って」です。

生徒のみなさんの感想より

*最後の「わたしの選びは正しかったです。」という言葉がすごく心に残りました。わたしは生まれた日のことや幼い日のことはあまり覚えていないのですが、今日お父さんとお母さんに「産んでくれてありがとう。」と伝えたいと思います。わたしが生まれたのも本当に『きせき』だと思うので、今後も命の重さを感じて生きていきたいです。

- *おなかの中にいる赤ちゃん視点でのお話でした。おなかの中にいる赤ちゃんは、どんな気持で親を選んだかなどが分かりました。親がどんな苦勞をして育ててくれているかも伝わったので、感謝したいです。
- *「目が見えない」「耳が聞こえない」「動けない」ということは、かわいそうとも辛そうとも考えずに、「もっと世界を感じられる」という考えをもって、目が見えない、耳が聞こえない、動けない人にも自分の知らない世界が見えているのだろうなと思った。
- *耳が聞こえない。目が見えない。両親がいない。どれも、ずっと経験している人から見れば、それが当たり前かも知れど、すごく苦勞して慣れていったのだと思います。耳が聞こえない分、目がよく発達し、目が見えない分、耳がよく発達する。世の中にはいろいろな人々がいるというのを感じました。
- *動物も人間と同じで心を持っているから優しく接する事が大事だと分かりました。人間の気持ちは言葉に出さないと伝わらないから、常に自分の気持ちが相手に伝わっているかを意識して生活したいです。
- *「僕」が犬のエルフィーに「ずーっとずっとだいすきだよ」と言っているのに感動しました。犬には分からない言葉だけと思いは伝わっているんだなと思いました。何に対しても、愛情という気持が大切なことを改めて学びました。
- *1万人に1人という確率の病気にかかってしまい、目や手にまひが残っても、使える方の手で頑張って字を書いたり、人を感動させるような詩を書いたりしてすごいと思いました。命の大切さが分かりました。
- *自分だったら、この歳で難病と知ったら、冷静ではいられないと思う。でも、この少年は、あまり両親に心配させないようにしてまねできないと思った。
- *ささいな一言、見て見ぬ振りをしたその一瞬が、いじめや争い、大きくなれば戦争を引き起こしてしまうということを忘れてはならないと思った。その小さな悪いことで、自分自身も辛くなってしまうこと、あるいは自分自身をなくしてしまうことにつながってしまう。私は、これから新しい環境に行くことになる。今日学んだことは、私のこの先に大いに関わると思った。
- *この話は道徳でもやったことのある内容だった。私は、教頭先生がこの本を読み進めていくごとに違和感と怒りを覚えた。「わたしのせいじゃない」だからといって、人を傷つけてはいけない。社会にでたときこの本のような無神経な人がいるかもしれない。こんなときにすぐに行動できる人になりたいと思った。「わたしのせいじゃない」私はこの言葉を使いたくない。
- *この本の読み語りを聞いて母親の愛情について考える事が出来た。母親はずっと僕を温かく、優しく育ててくれている。いつも、苦勞ばかりかけていて、どんなときも真剣に怒り、正しい事を教えてくれた。そんな母親に対して感謝の気持ちを言葉にして伝えたいと思った。
- *私は、ウェン王子が“2人の母親がいる”と言った場面がとても印象に残っている。今までウェン王子の母親が活着ているかどうか心配していたように、トラもウェン王子のことを自分の子どものように大切に思っているのだと感じた。また、ウェン王子が言っていた「トラとして学ばなければならないこと」は人にとっても大事なことだと思った。

